

総合内科

部長 中山 修一

はじめに

当科は救急診療に強い総合診療医育成を目指し2014年1月に杉本 和彦医師により総合診療科として開設されました。2015年2月には浅羽 宏一医師が、2019年7月から中山が加わり、開設当初から、主に救急科（ER科）、内科の先生方と協同で、救急車で来院される患者さんや歩いて救急外来を受診される患者さんを診療し、学生や研修医の指導を行って来ました。2020年6月に杉本医師が退職され外科系の診療が出来なくなりましたが、2021年4月から消化器内科の市川 博源部長が総合診療科に移籍され、内科専攻医の岸本 浩一郎医師が加わったことで、内科系の総合診療を行う総合内科・総合診療科へ科名を改称し生まれ変わり、その後名称が長いので総合内科に変更されました。現在もその名称を引き継いでおります。2023年度末をもって市川部長が退職されており、現在は中山および浅羽部長の二人態勢となっております。また高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科より後期研修医の派遣をうけており、2024年度は吉本龍太郎医師が来ておりました。

外来診療

中山が月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に外来を行っています。2024年度（正確には2025年7月までですが）はリウマチ・膠原病内科の吉田科長がアメリカ留学されていることもあり、その代診を行っていることから、このような形となっております。浅羽部長は火曜日と水曜日に外来を行っています。前述の通り現在は2名体制となっております。また、中山がリウマチ・膠原病内科の診療も行っていることから、総合内科への紹介患者数は2023年の258名から2024年は127名へと減少しております。浅羽部長や中山の専門領域のみならず、不明熱や不定愁訴など診断に難渋する患者さんの紹介も受けており、可能な限り正確な診断を行い、必要であればしかるべき専門科に紹介することを心がけております。これからもご紹介頂いた患者さんを我々が正しく診断し適切な診療科に院内紹介したいと思っております。

入院診療

2019年からは入院診療を開始しました。入院患者数は2019年には227名でしたが、2020年には270名、2021年には498名、2022年には589名、2023年は580名になりました。残念ながら前述の理由でマンパワーが低下してしまい、2024年は345名となっております。疾患別では尿路感染症、高齢者の誤嚥性肺炎、低Na血症などの電解質異常や糖尿病性ケトアシドーシスなどが多く、その他脱水症、蜂窩織炎、良性発作性頭位めまい症の患者さんなども担当しました。入院診療は浅羽部長の糖尿病・内分泌内科や、吉村部長ならびに宇都宮科長の腎臓内科と協力して診療に当たっています。当科は研修医の受け入れは行っておりませんが、糖尿病・内分泌内科ならびに腎臓内科は研修医を受け入れておりますので、面白い症例があれば適宜研修医にも担当して貰っています。

今後の展望

4月より吉本医師に代わり井萱医師が高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科より派遣されます。また7月にはリウマチ・膠原病内科の吉田科長が帰院されます。引き続き「病気を診ずして病人を診よ」をモットーとして、今後も全人医療を行い、専門領域に拘らない医療を行うよう心がけたいと考えております。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
プロピルチオウラシル再投与後に薬剤誘発性ループスと ANCA 関連血管炎を生じた後、Systemic capillary syndrome を併発し死亡した 1 例	城 可方、吉田 剛、中山 修一、高田 智也、公文 義雄	第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会	4 月 18 日 ～20 日 兵庫
産後発症の高安静脈炎で大動脈解離をきたした 1 例	吉本 龍太郎、山本 博隆、小笠原 真沙実、猪谷 哲司、大出 佳寿、谷口 義典、堀野 太郎、寺田 典生	第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会	4 月 18 日 ～20 日 兵庫
低血糖によるふらつき倦怠感で当院救急外来を受診した 2 症例	前田 佳純、中山 修一	第 130 回日本内科学会四国地方会	6 月 16 日 徳島
高度肥満で壮年期に心房細動を合併した強直性脊椎関節炎の一例～本例の心房細動の発症に関する文献的考察～	公文 義雄、岡野 匡志、吉田 剛、中山 修一、近澤 宏明	日本脊椎関節炎学会第 34 回学術集会	8 月 17 日 ～18 日 大阪
原発性アルドステロン症(右副腎腺腫)の術後腎機能低下に対して黄耆配合の漢方薬が奏功した 1 例	絹川 仁康、浅羽 宏一、中山 修一	第 24 回日本内分泌学会四国支部学術集会	9 月 7 日 愛媛
血管炎の筋病変の検出における骨格筋 MRI と超音波検査の有用性	吉本 龍太郎、吉田 剛、中山 修一、谷口 義典、公文 義雄	第 35 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会	11 月 2 日 ～3 日 広島
無痛性膵炎(脂肪膵)と糖尿病性ケトアシドーシスを併発した 2 型糖尿病の 1 例	山本 達之、浅羽 宏一、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第 62 回総会	12 月 6 日 ～7 日 岡山
2 型糖尿病に黄疸を伴う Glycogenic hepatopathy を合併した 1 例	秦 剛志、浅羽 宏一、榮枝 弘司、坂西 誠秀、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第 62 回総会	12 月 6 日 ～7 日 岡山
急性膵炎発症後 11 日目に糖尿病ケトアシドーシスとなった劇症 1 型糖尿病の 1 例	絹川 仁康、浅羽 宏一、大川 良洋、中山 修一	日本糖尿病学会中国四国地方会第 62 回総会	12 月 6 日 ～7 日 岡山

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ